

FD

Faculty Development

news



vol.6

〈発行日〉2021年3月
〈発行者〉上智大学FD委員会

「上智大学 オンライン授業 ポータル」の開設

2020年度秋学期
FD活動実施報告

オンデマンド授業の
可能性と課題 2020年度の体験から

Report on EMI Share
Lunchtime Gatherings,
2020-2021.
(EMI Share 2020年度報告書)

授業アンケート集計結果

「上智大学オンライン授業ポータル」の開設

2021年2月20日に学長メッセージ「2021年度の授業実施に向けて」が発表されました。

昨年12月に次年度の授業に関する方針を発表して以降、首都圏の流行拡大に伴う緊急事態宣言発令、そしてその延長と、厳しい状況が続いています。これらを踏まえ、授業について慎重に検討と準備を重ねてきました。4月からの授業は対面を多く取り入れつつ、大人数科目をオンデマンド授業として開講するほか、学部・学科の特性、健康上の事情などを考慮し、オンライン形式を併用します。コロナウイルス流行下では、さまざまな事情により対面授業に参加できないケースが予想されることから、ハイフレックス授業*も幅広く取り入れます。

この発表を受けて、オンライン授業(オンデマンド授業、ハイフレックス授業)の技術情報と、授業運営に関する情報をお知らせする「上智大学オンライン授業ポータル」が開設されました。

※一部の学生が外部からZoomを用いてライブで参加する授業

**上智大学
オンライン授業ポータル**

<https://sophiamail.sharepoint.com/sites/sophiaportal/onlineclass2021>

《 項目 》

オンデマンド授業
著作権の二次利用
ハイフレックス授業
ZOOM授業
学生の理解度把握について
FAQ



2020年度秋学期FD活動実施報告

日程	テーマ	講師	所属
2020年10月14日	Who is EMI for? -Inclusion of diversity in EMI EMI受講生の多様性と包括	逸見 シャンタール	言語教育研究センター
2020年11月2日	オンライン授業時代の大学のあり方 (2020年度創立記念プログラム)	田村 恭久 (ファシリテーター)	理工学部情報理工学科
2020年12月9日	Giving Feedback on Students' Writing Online	Graham MACKENZIE	言語教育研究センター
2021年1月13日	Teaching in English Lunchtime Gathering What are your experiences with online teaching? オンライン授業の経験から学んだことを共有しましょう	川西 諭	経済学部経済学科
2021年1月19日	LGBTQ+がいることを前提とした授業づくり	鈴木 茂義	文学部非常勤教員・公立小学校教員
2021年1月26日	オンデマンド授業の可能性と課題-2020年度の体験から	遠矢 浩規	早稲田大学 政治経済学術院
2021年1月27日	秋学期オンライン授業アンケート結果報告	IR推進室	—
2021年2月22日	ハイフレックス授業実施に係るFDセッション(日本語)	田村 恭久	理工学部情報理工学科
2021年2月25日	ハイフレックス授業実施に係るFDセッション(英語)	逸見 シャンタール	言語教育研究センター
2021年3月15日	ハイフレックス授業実施に係るFDセッション(日本語)	田村 恭久	理工学部情報理工学科

2020年度秋学期に実施したFD活動の一部を紹介します。

オンデマンド授業の可能性と課題

2020年度の
体験から

講師 遠矢 浩規氏(早稲田大学 政治経済学術院 教授)

2020年度初めてオンデマンド授業を実施したにも関わらず、多くの工夫を凝らし、学部講義科目「国際政治経済学」(130名)をフル・オンデマンドの形態で実施し、自身の授業評価アンケート・大学公式の学生授業アンケートで高い評価を得た経験を持つ。

[講演会の概要]

講師がオンデマンド授業を行うにあたり最初に考えたこと

《 学生も教員自身もストレスを軽減しモチベーションを高める工夫が必要なこと 》

- 「制作のポリシー」: ①長い動画は作らないこと ②動きのある動画にすること ③遊びの要素を入れること ④1人ではないと感じさせること
- 「動画のスタイル」: ①積み立て方式 ②フル・アニメーション ③読み上げソフトの音声 ④Q&Aコンテンツの挿入

オンデマンド授業で工夫したこと

- 1つのパッケージとした90分の授業(小テーマ動画・小テスト・アンケート)
- フル・アニメーション・読み上げソフトの音声の小動画
- 深夜ラジオ番組形式の質疑応答やフィードバック

学生からの評価

「授業が分かりやすかった。」「緊張感をもって授業に望めた。」「孤独感が軽減された。」

課題・難しかったこと

- 成績評価が難しいこと ● 大学らしい授業と分かりやすさの両立
- オンラインはあくまで対面授業の代替であるという意見
- 著作権やライセンスの問題



動画アーカイブ

視聴URL

<https://youtu.be/hL293n5EpZU>



秋学期オンライン授業アンケート結果報告

春学期につづいて実施された、「秋学期のオンライン授業に係る学生アンケート」の集計結果をもとに、IR推進室より、主に①受講状況、②理解度と満足度、③メリットとデメリットについて報告されました。

報告後、参加者からは多くの質問が寄せられ、その中でもGood Practiceとして、「オンデマンドが中心だとしてもリアルタイムで質疑応答の時間を確保することの重要性」が共有されました。

このアンケートで寄せられた事例を集め、グッドプラクティス集として紹介しています。オンデマンド授業の実施の際の参考にご活用ください。



オンデマンド授業のグッドプラクティス集 URL

<http://www.fd-sophia.jp/education/onlinelesson.html>

Report on EMI Share Lunchtime Gatherings, 2020-2021.

2020/2021 was of course a very challenging academic year for us, with all teachers forced to adjust the way they conduct classes. Restrictions due to coronavirus and the increased workload for many of teaching online made it difficult for us to conduct EMI-Share Lunchtime Gatherings as normal. However, as we gradually became accustomed to new circumstances, we were able to hold three online sessions from October 2020 to January 2021. Under the theme of “EMI, Online and Beyond”, the sessions were a good opportunity for us to consider where EMI is now, and to learn from each other regarding teaching online in particular.

Lunchtime Gathering 1 Who is EMI for? Inclusion of diversity in EMI.

Professor Chantal Hemmi, Center for Language Education and Research. 14th October 2020. Attendees: 9.

In the first session of the year Professor Hemmi shared some her learning points and observations from her participation in the Oxford Online Course for EMI Lecturers (see - <https://www.oxfordemi.co.uk/InternationalAudience>). In particular, Professor Hemmi was keen to stress the importance of making sure our classes make provision for the inclusion of diversity of thought, culture, language and values, as well as the importance of recognizing that EMI must be for everybody that chooses to learn a language in English. She then showed us a practical idea for this - “identity posters” in her SPSF academic writing class. The ideas that students came up with gave great insight into their identities and reflected the very diverse nature of the students on the SPSF program. Finally in this session, participants shared ideas they had for activities from their own classes that made good provision for including the diversity of learners.



Lunchtime Gathering 2 Giving Feedback on Students’ Writing Online.

Professor Graham Mackenzie, Center for Language Education and Research. 9th December 2020. Attendees: 14.

In this session Professor Mackenzie shared some practical ideas and useful tools for giving feedback on students’ writing. He explained the year had been a journey for him in terms of moving from being a largely analogue marker or students work to one who felt comfortable using digital tools such as Quick Marks (Turnitin) and the rubric function on Moodle. Participants were briefly shown how to use these tools, then shared their ideas for giving students feedback on their writing online in breakout rooms.

Lunchtime Gathering 3 What are your Experiences with Online Teaching.

Professor Satoshi Kawanishi, Department of Economics. 13th January 2021. Attendees: 14.



In the final session of the year, Professor Kawanishi facilitated an open discussion on how we had all adapted to teaching online. Specifically, the participants discussed what had been positive and negative about teaching online, and shared good ideas and solutions with a particular view to incorporating new effective practice into our teaching, whether that be online or face-to-face. To do this in breakout rooms, Professor Kawanishi showed us how to use Google Jamboard, which proved to be an effective tool for brainstorming and sharing ideas online.

As a whole, although we only had three sessions, there was plenty of opportunity for us to discuss our challenges and discuss solutions in terms of moving to teaching online in particular. We are sure that the EMI

Share Lunchtime Gatherings will continue to be a valuable forum for teacher development and for building relationships across faculties and departments in 2021/2022.

EMI Share 2020年度報告書

言語教育研究センター Graham Mackenzie

EMIワーキンググループが確立され、早くも一年が過ぎようとしています。今年度は私たちにとり非常に困難な年であり、コロナ禍の中、授業の実施方法を調整することを余儀なくされました。コロナウイルスによる制限と、オンライン授業の準備などで、最初は通常どおりEMIランチタイムギャザリングを実施することはできませんでした。徐々に新しい状況に慣れて、2020年10月から2021年1月までの3回のオンラインセッションを開催することができました。EMI, online and beyondをテーマに、EMIについて考える良い機会となり、特にオンラインで教えることに関してお互いから学ぶことができました。EMI-Shareは昼休みの時間に和やかな雰囲気の中で行われました。

1 Who is EMI for?- Inclusion of diversity in EMI EMI受講生の多様性と包括

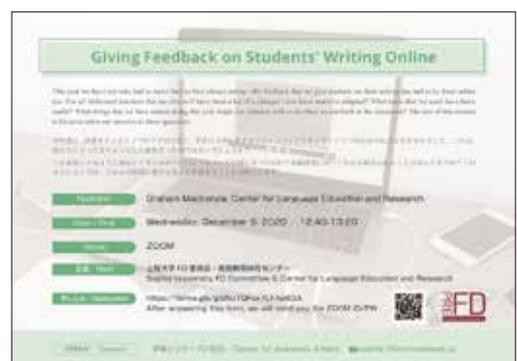
言語教育研究センター 逸見シャントール 2020年10月14日 参加者:9名

今年の最初のセッションで、EMI講師のためのオックスフォードEMIオンラインコースへの参加から得たいくつかの学習ポイントと観察結果を共有しました。(https://www.oxfordemi.co.uk/InternationalAudienceを参照)。まず思考、文化、言語、価値観の多様性を含めることの重要性、およびEMIは学習することを選択したすべての人のためでなければならないことを認識することの重要性を強調しました。次にこのための実践的なアイデアを示しました。SPSFアカデミックライティングクラスの「アイデンティティポスター」を例に取り、学生が作ったポスターがアイデンティティへ洞察を与え、SPSFプログラムの学生の非常に多様な性質が反映されていました。最後に、参加者は、学習者の多様性を含めるための活動についてのアイデアを共有しました。

2 Giving Feedback on Students' Writing Online

言語教育研究センター Graham Mackenzie 2020年12月9日 参加者:14名

このセッションでは、学生の文章に対するフィードバックを提供するための実用的なアイデアと便利なツールをいくつか共有しました。かつては学生の課題に手書きでフィードバックをしていたのに対し、オンラインの授業になり、Quick Marks(Turnitin)やMoodleのルーブリック機能などのデジタルツールを快適に使用できるようになり、大きな学びとなった一年であったことを説明しました。これらのツールの使用方法を簡単に説明し、その後、Zoomのブレイクアウトルームでのオンラインライティングに関するフィードバックを学生に提供するためのアイデアを共有しました。



3 What are your experiences with online learning?

経済学部 川西諭 2021年1月13日 参加者:14名

このセッションでは、オンライン教育にどのように適応したかについての話し合いをファシリテーションの手法を使い、行われました。具体的には、参加者はオンライン教育の良い点と悪い点について話し合い、オンラインであろうと対面であろうと、新しい効果的な実践を私たちの教育に組み込むことを視野に入れて、良いアイデアと、難しいことの解決策を共有しました。Zoomのブレイクアウトルームでこれを行うために、講師はGoogle Jamboardの使用法を示されました。この活動は、ブレインストーミングやオンラインでのアイデアの共有に効果的なツールであることを明らかにしました。本年度の活動を振り返ると、特にオンライン教育への移行という観点から、課題について話し合い、解決策について話し合う機会がたくさんありました。EMI Share を通じて2021年度にもお互いを支え合い、学部や学科間の関係を構築するための大切なフォーラムであり続けるように協力していきたいと思えます。

📢 学生からの声 授業アンケート 集計結果

2020年度秋学期全学共通科目授業アンケートについて

このたび集計結果がまとまりました。ご協力下さった学生、教員の皆様に深く感謝申し上げます。

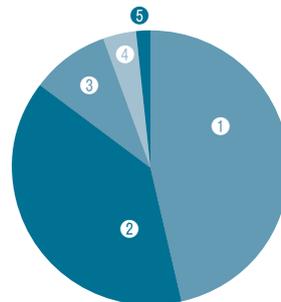
〔対象科目総数〕295科目(実数*291) 〔回答対象者数〕20,719名 〔回答者数〕7,225名 〔回答率〕34.9%
※登録コード・科目名が異なるが、担当教員・授業時間が同一の科目を実数と数える。

◆過去3回の推移

	2018年度・秋学期	2019年度・春学期	2020年度・秋学期
対象科目総数	277(実数272)	246(実数242)	295(実数291)
回答対象者数	21,562	19,457	20,719
回答者数	10,363	10,534	7,225
回答率	48.1%	54.1%	34.9%

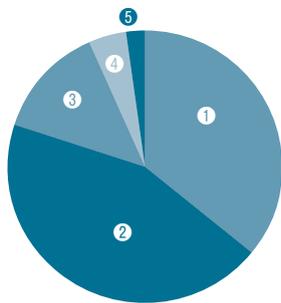
この授業はオンラインでも 支障なく行われましたか。 (オンライン授業の場合のみ回答)

- ① とてもそう思う (3,287) 45.5%
- ② そう思う (2,743) 38.0%
- ③ どちらとも言えない (654) 9.1%
- ④ あまりそう思わない (265) 3.7%
- ⑤ そう思わない (110) 1.5%



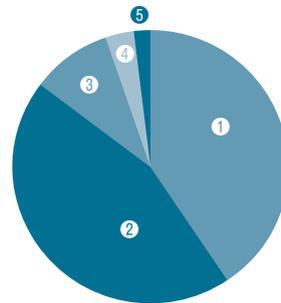
この授業を受けて知的に刺激され、 深く勉強したくなりましたか。

- ① とても知的に刺激された (2,606) 36.1%
- ② 知的に刺激された (3,189) 44.1%
- ③ どちらとも言えない (951) 13.2%
- ④ あまり知的に刺激されなかった (327) 4.5%
- ⑤ 知的に刺激されなかった (152) 2.1%



総合的に判断して この授業に満足しましたか。

- ① とても満足した (2,933) 40.6%
- ② 満足した (3,231) 44.7%
- ③ どちらとも言えない (684) 9.5%
- ④ あまり満足しなかった (252) 3.5%
- ⑤ 満足していない (125) 1.7%



アンケート
集計結果の詳細

ご担当科目 : Loyola ⇒ アンケート/各種申込 ⇒ アンケート集計結果照会
全体総括 : FDホームページに掲載
<http://www.fd-sophia.jp/education/survey/report.html>



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

上智大学 学事センター(FD推進担当)
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 TEL.03-3238-3522 FAX.03-3238-3264

<http://www.fd-sophia.jp/>

